



ウルティマ オンライン
ストーリーブック



BN Archives

一本書を

ブリタニアで暮らす

全ての人々の想いに捧げる一

BNNアーカイブスより

あるときは戦場で命をかけて、そしてあるときは友情とロマンスに涙しながら、BNNの記者たちは真実の記録を綴った。



BNN (Britannia News Network) は、ブリタニアで起きている様々な出来事を報道するために設立されました。新しい世界の発見、未知の生物探索、世界を震撼させる大事件まで、ブリタニアでは多種多様な事件・研究・探索があります。BNNはブリタニアで暮らすあらゆる人々に向けて、これらニュースを報道し続けています。そして、この膨大なニュースを記録し保存しているのが「BNNアーカイブス (Archives)」と呼ばれる書庫です。ここにはリポーターから届いた取材の原稿、多くの画像がBNNアーカイブスのスタッフの手によって大切に保管されています。

本書を編集するにあたり、300年以上にわたるブリタニアの歴史を改めて紐解き、BNNアーカイブスの資料から比較的大規模な事件をまとめあげました。巻末には記録で散見できる、歴史に名を残している主要人物の紹介を盛り込んでいます。

本書がブリタニアの歴史を振り返る一助となれば幸いです。

徳が共にあらんことを。

Contents

砕け散った宝珠の唱	4
F.o.A (Followers of Armageddon)	6
皇帝Golmor降臨	8
ブリタニア・クライシス (鏡に映った世界)	10
戦火に残された希望	11
ギルフォーン	12
The Savage Empire	13
Gargoyle's Redemption	14
西部ガード	15
Blackthorn's Damnation	16
Plague of Despair	17
調査隊、遂に未確認生物を発見!	18
Ants Go Marching	19
平和祈願碑建設	20
光と影	21
灯	22
正しさの定義	23
契約と代償	24
マラス発見	25
遙かなる大地の果てに	26
ロード・ブラックソーンついに倒れる!	27
登場人物	28
イベントの概要	30

砕け散った宝珠の唱

この世界、ブリタニアの成り立ちを、王室作曲家見習いの Sedrik the Amicableが伝承した記録がここにある。

「若者よ、夜明けまでのひとときをここで休まれるがよい。暖かい炎と食事、そして私の歌声とマンダリンの奏でる世界を、新たなる陸途を歩む前に楽しんでゆかがよい」

恐らく、そなたの知りたい全てのことについて最も知り得ている人物はこの私であろう。私は詩人として、そなたも知っている愛すべきブリテインに始まり、ムーングロウ、トリシニック、そして他の街に私の歌を広めるべく巡業を経験している。そなたに話そうとしているこの物語の知識なくブリタニアを旅したとしても、決してこの世界を理解する事は出来ない。では、そろそろ始めるとしよう……。

ソーサリアとロード・ブリティッシュの統治する四大陸に招かざる客が迷い込む遙か昔、暗黒と絶望の世界、そして封建的な社会が若き魔法使いモンデイン(Mondain)を誕生させた。モンデインは歳と知識を重ねるうち、満たされることのない知識に対する渴望と死に対する矛盾を感じ、運命を超えた永遠の命への執着と妄想に取り憑かれていった。その結果、彼は永遠の命を持つ宝珠の存在を得、持つ者の想像を遙かに超える偉大な力を自らの手中に収めたのだ。そなたもこの宝珠については聞いたことがあるだろうか？



この王国の歴史研究家達と同様に、モンデインの不死への欲求は、道義的に魔法の能力を極めようとするこの国の人々の賢明さを傷つけるものであると私も考えている。奴の宝珠への切望は底知れぬものとなり、そして多くの苦しみの中に、彼は意図的に宝珠の持ち主であった自分の父親を殺すよう仕向けたのだ。

モンデインの名は、利己的な利益のために自らの血筋に剣を突き立て暗黒界との永遠の共存を誓った呪われし者として、今日に至るまで卑下されている。しかし、我々の本当の憎悪を理解するためには、呪われたモンデインのもう一つの夜の物語を知っておかなければならないだろう……。



宝珠を自らのものとして確保したモンデインは、最高の力を彼に与えるであろう儀式の準備に入った。そして、モンデインと宝珠を永遠に結びつける儀式の中、宝珠は世界をその小さな球体の中に写し込み奴に全てを統治する力を授けたのだ。

招かざる客が訪れ、モンデインの存在の源を破壊することを決心するまでの間、不滅の力を得たモンデインは宝珠の中の世界を支配することとなった。ソーサリアを何年もかけて旅する訪問者は、全ての人々に覆い被さるモンデインの暗い影をめぐい去ることを自らの運命の冒険とし、多くの戦いの末、ようやく独裁者のねぐらにたどり着いたのである。そして宝珠を粉々に砕くことにより悪の魔法使いモンデインを打ち倒した。宝珠の力が失われ、不滅の根元が解き放たれたとき、宇宙の次元がほぐれ始めると同時にモンデインの存在が打ち消されたのである。



しかし、訪問者は伝説に名を残すこともなく人々の前から去り、ブリタニアではモンデインを倒したこの謎の人物を忘れないよう、毎年その存在を講えている。恐らく彼の訪問は長すぎたのかも知れない。あるいはモンデインのどん欲さが彼

をその気にさせなかったのかも知れない。いずれにしても、この慈悲深き亡霊の存在がなければ、今日のブリタニアは存在しなかっただろう。

至高の力を求めるたった一人の男の冒険が世界を制圧した魔の手からこの土地を正しい道へと導いた。そして、宝珠の崩壊により引き起こされた連鎖により、我々が今日ブリタニアと呼ぶかつてのソーサリアの大地と空間が砕けた破片に織り込まれた。まやかに聞こえるだろうが、今でもこの島々の畝の連なりこそがその縫い目であると信じられているだ。

また宝珠が砕けた時、幾千もの分裂させられた破片が宇宙をまたがり飛散したとも言われている。そしてモンデインの儀式により縫い込まれたように、破片の一つひとつにソーサリアの世界が横たわっていると信じられている。



これらの破片の存在を証明できる何かを歴史家達はまだ見いだすことも、そして手段さえも見つけてはいない。しかし、この歴史をさかのぼり自らの存在の理由を得られるのであれば、私の生活のすべてを捧げてよいと思っている！ あるいは新たなる訪問者が現れて、この疑問に答えてくれる日がいずれ来るのかも知れない。

ウルティマ オンライン公式ページ
—プレイガイド— より
<http://guide.jp.uo.com/history.html>

F.o.A (Followers of Armageddon)

暗躍する謎の秘密結社。ロード・ブラックソンの誘拐や大地震。
ブリタニアは初めての、そして未曾有の転機を迎えていた。

Harthamが暗殺者のDurynの毒刃によって暗殺された。この頃からブリタニアには、さまざまな事件が起こっていった。それら事件について書き出すとしよう……。暗殺されたHarthamの息子Craw Worthは、トリンシックの衛兵指揮官に就任し、ブリタニアの滅亡をもくろむ謎の秘密結社に立ち向かう。

Lich Lathiarilは多くのアンデッドの軍団を率いて正義の神殿を襲撃し、神殿石 (Shrinestone) を奪った。

時を同じくして、Jou'Narはオーク (Orc) の力を借り霊性の神殿を襲撃した。更に同じ頃、ベスパアの街の北部にトロル (Troll) の兄弟のG'SplatとG'Thunkが現れ、Lich Lathiarilの妹のLich Kyrnialは神殿石で謎のゲートを出現させるが、賢者・Sage Humboltによりゲートを封鎖し危険を避けることができた。

Craw Worthは秘密結社を追うために衛兵指揮官を辞任した。

Lord Jou'Nalが殺害され、ロード・ブラックソンが誘拐される。

Sage HumboltはLich兄弟を倒すも、毒により死亡してしまう。そのとき、以前連れ去られていたロード・ブラックソンが目撃される。

Craw Worthの帰還と共にトリンシック軍を結成、その間プリティンに展示されていたモンティンの遺骨が秘密結社に

よって盗まれる。

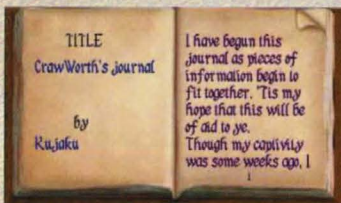
Craw Worth率いるトリンシック軍は迷宮・ヘッジメイズで秘密結社と戦い、メンバー5人を倒す。

ベスパア近郊でG'Thunkの沈没船が発見され、そこで見つかったメッセージがCraw WorthとSage Winslowに届けられる。

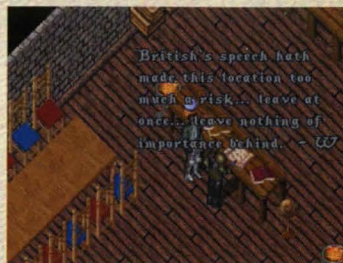
Craw Worthが何者かに襲われるのだがベスパアの東で救出される。

そして秘密結社の起したArmageddonの魔法によって、ブリタニアに大地震が起る。

この地震によりできた洞窟が発見された。この後、Craw Worthはロード・プリティッシュの命により洞窟の探索に向かうことになった。大地震の後、秘密結社はFollowers of Armageddonと名乗るのだった。



ここまでが私が調べたFollowers of Armageddon (以下FoA) という組織の話だ。これからは私自身がこの事件を追うことになる。

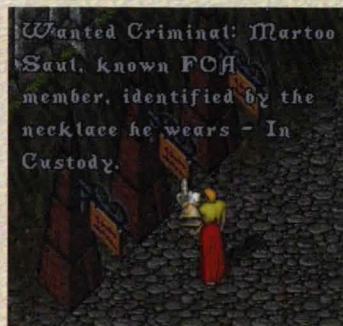


Craw Worthが洞窟への出発の前に、FoAの情報の伝令をReneeに託していたおかげで、FoAのアジトをつきとめることができたのだが、ベスパアの地下にあるアジトは既に引き払われていた。しかし、アジトの残留物からいくつかの重要な書籍や文書を見つけることができた。Sir Duquelleの惨殺死体の事件を追うと共に、Sage Winslowと数人のメンバーを捕まえる。



その頃、FoAに連れ去られた、ロード・ブラックソンがブリタニアに戻ってきた

のだ。彼は大地震によって出現した洞窟の先にある、新世界・失われた大陸 (Lost Land) から戻ってきたのだ。ロード・ブラックソンはSage Winslowの釈放に伴ない、自らの城に招き入れることを明らかにした。隊長のジョフリーは、拘禁中のFoAメンバーをサーベントホルドからトリンシック、更にユアの監獄へ護送すると発表し、その際に護衛する民兵を募集したようだ。だが、護送の途中で拘禁中のメンバーを取り逃がしてしまう。



その後、シェイムのダンジョンでSage Winslowと思われる白骨死体を発見する。後に同じくシェイムにてFoAのリーダーを発見し捕まえ、ユアの監獄に拘禁した。だが、FoAのリーダーは死んだはずのSage Winslowと似ており、同一人物なのではないかと思われた。

こうしてブリタニアに大地震という災いをもたらし、いくつもの事件を起こしたFoAのリーダーが捕まったことにより、いくつかの謎は残るものの、世界は落ち着きを取り戻した。そして新大陸の発見と共に新時代へと向かうのであった。

皇帝Golmor降臨

蘇る恐怖、暗黒の皇帝が4人の将軍を従えてついに復活。火時計の炎が消えるとき世界は崩壊する！

皇帝Golmorは過去に倒された邪悪な者たちの復活を企てている。

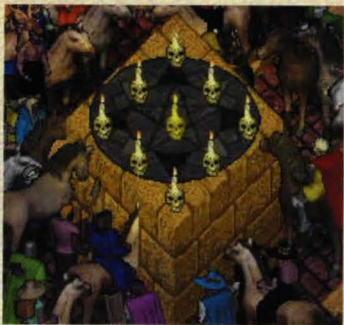


邪悪な魔導師Osbourne、鬼神の女戦士Venessa、双子の将軍JordanとMeyer。彼らは皇帝Golmorの四将軍と呼ばれていた。彼らは以前ブリタニアの各地で恐怖をもたらした。しかし、幾多の犠牲を払いながらも冒険者たちの活躍によって倒されたのだった。



ある日、プリティンに1人の予言者が現れて「皇帝Golmorは、この世界を破滅に導くであろう。そして四将軍が蘇る日も近づいている」と言った。人々は再び過去の恐怖を味わうのだろうか……。

数日後、Venessaが復活するという情報を得て多くの冒険者たちがデスタードのダンジョンへ阻止に向かった。だが、Venessaの復活を阻止することはできなかった。更に、その事件が合図だったかのように、次々と他の将軍たちもデシート、ロング、コプスといった各ダンジョンで復活をしてしまった。誰も四将軍たちの復活を阻止することができなかったのだ。



恐れていた事態が現実のものとなり、皇帝Golmorと過去に倒された邪悪な者たちによる野望が開始されることは、間違いないだろう。

そしてタウンク라이어から、「皇帝

の魔力により彼の居城と4つの塔が海上に現れた」ということを知らされる。更に、「ムーングローウのライキウムに火時計が現れ、その火がすべて消えたとき世界は滅ぶ」と言った。冒険者たちは、これが最後の戦いだということを感じていた。皇帝Golmorを倒さなければ世界が滅ぶのだから……。

海上にある塔や城には船で行くことはできず、ある場所に現れた真っ赤なアングに特別なキーワードを言うことによってテレポートできるらしい。そして1人の冒険者によって探しあてられたキーワードにより岩にテレポートした。4つの塔は復活したOsbourne、Venessa、Jordan、Meyerの四将軍が守っており、冒険者たちは見事に4つのキーワードを集めて皇帝Golmorの城にたどり着いたのだ。だが、城の中にGolmorはおらず、地下のテレポーターによってヒスロス島(The Isle of Fire)のデーモンテンプル(Fire Temple)に移動したようだ。冒険者たちも後に続き、Golmorとの最終決戦に向けて備える。魔法陣の中にある地獄の門(Hell's Gate)が、世界の終わりを予感させている。



そして姿を現した暗黒皇帝Golmor。恐ろしいほどの攻撃力で次々に冒険者た

ちはなぎ倒されていった。だが、彼らは怯むことなく何度でも立ち上がり向かっていく。冒険者たちの集中攻撃により徐々に体力を減らされるGolmor。誰もが勝利を確信した瞬間、Golmorの姿が金色に輝くデーモンに変身したのだ。ついに皇帝Golmorは真の姿を現した。



Golmorは冒険者たちに向かいこう言い放つ、「たかが人間ごときにこの姿を見せようとは……。もはや誰1人として生かして返さん！」と。

真の姿となったGolmorは高度な魔法を操り、周りにいる冒険者たちを一瞬のうちに倒してしまう。だが彼らは再び息を吹き返し立ち向かう。どれくらい時間が経ったのだろうか、冒険者たちは幾多の犠牲を払い、仲間の屍を越えてついにGolmorを倒した。

皇帝Golmorを倒したことにより地獄の門は閉じ、ライキウムにある火時計も残りわずかとなっていたロウソクと共に消滅したのだった。そしてタウンク라이어は、冒険者たちによって世界が救われたことを街中に知らせた。

ブリタニア・クライシス(鏡に映った世界)

あの目、あの声。ロード・ブリティッシュの謎を解明したミナックスはモンデインの仇を討つべくブリタニアを席卷！

シャード(Shard)は、不死の宝珠が粉砕されたときに飛び散った破片である。そのため、いくつものファセット(面)を持っている。魔法使いモンデインが討伐された後、モンデインの愛弟子であった魔女ミナックスは、アバタールから逃れるために、強力な魔力を駆使して同じシャードの別な面に移動してしまった。

そこでミナックスは、元の世界に戻る方法を探ると同時に師匠の仇、ロード・ブリティッシュとアバタールを倒すための算段を練っていたのだ。ミナックスはまた、暗黒面(Dark Facet)の怪物どもの中から、彼女に忠誠を誓う手下を集め、それらに彼女自身の名にちなんで「ミナクシア」と名づけるなど、着々と力を蓄えていった。

そしてついに、ミナックスは面間の移動を可能にする秘密を解き明かし、行動に移したのだ。ミナックスは忠実な下僕たちをブリタニアに送りこみ、ロード・ブリティッシュはもちろん、ブリタニア全土に対して猛攻撃をしかけていった。

とうとう持ちこたえられなくなったロード・ブリティッシュは、ブリタニアの全住民と忠実な家臣を引き連れて、もうひとつの面へ移ることを余儀なくされた。そこは徳に守られていたため、ミナックスには手が出せないのだった。それでもなんとか、ミナックスの手下はロード・ブリティッシュの新世界にまで侵

入することはできたのだが、高い徳の力におおわれていたため、直接的、あるいは間接的にも、そこでは他人を傷つけることができなくなっていた。

2つの並行世界の存在が確認されたとき、その間を行き来する方法も発見された。それは、ミナックスが送りこんだ兵士の遺体から発見された2つの小さな石だった。当初、土占い師たちの必死の分析にも関わらず、その魔法を解明することができなかったが、ある時、調査の最中に石の性質が劇的に変化した。そこでわかったことは、さらに驚くべきことで、2つの月に向かって伸びる2本の力の線が観察されたのだ。これらの石は、トランメル・ムーンストーン(Trammel Moonstone)とフェルッカ・ムーンストーン(Felucca Moonstone)と名づけられ、この石を使うことによって暗黒面と有徳面へ移動できるのだ。これにより、人々は2つの面を自由に行き来することができるようになった。



ミナックス
(Dread Lady Minax)

戦火に残された希望

3つの原理の宿りしブリタニアの秘宝を使い、ミナックスによって汚された神殿を浄化せよ。

ニスタルは研究室の椅子に腰掛け、2人の友人が帰って来るのを待っていた。サーベント ホールドから持ち帰るはずの勇気の鐘(Bell of Courage)は、彼らがいなければ持ち帰ることができないのだ。唯一、鐘の正確な場所を知るデュブレ、そしてジョフリーだけが台座から取り外せるのだ。机の上には真実の本(Book of Truth)と愛のろうソク(Candle of Love)が置かれている。

ついに2人は帰ってきた。だが、手には勇気の鐘が握られてはいなかった。魔女ミナックスによって勇気の鐘は粉々に破壊されていたのだ。しかしニスタルは勇気の鐘の復元方法を調べ、復元に必要な材料を2人の友人に集めてくれるよう頼んだ。



その頃フェルッカの全域でタウンクライヤーたちが、「ミナックスがニスタルの妨害に出た！ 全神殿にモンスターが

集まっている！」と叫んだ。現在、神殿はミナックスによって汚されていた。ニスタルたちは勇気の鐘、真実の本、愛のろうソクの方で神殿を浄化する予定だった。冒険者たちによってモンスターたちが片付いたとき、正義の神殿でジョフリーは彼らに語りかけた。神殿を取り戻すために勇気の鐘の復元が必要で、復元には4つの材料が必要なのだ。その材料とはWyrms's Gold、Red Serpent Scale、Pure Spider's Silk、Pure Black Rock Oreだと伝え、集めるのに協力して欲しいと頼んだ。冒険者たちは快く応じてくれた。材料を採取するために倒さなければならない数々の特殊なモンスター、そしてミナックスの軍勢を退けて見事に4つの材料を冒険者たちは手に入れ、ニスタルは集まった材料を手で勇気の鐘の復元に成功した。その後の報はタウンクライヤーから人々に伝えられた。「多くの勇者たちの活躍によって、神殿は全て浄化された！」と。



ギルフォーン

新世界への扉を開くファセット移動のムーンゲート。それは1人の男が長年追っていた夢の実現だった。

ギルフォーン (Gilforn) は、ゲートトラベルとテレポートの研究にかけての第一人者として名を知られていた。恐らく、誰もが一度はギルフォーンを設置したテレポーターの恩恵にあずかっているだろう。

ファセットと付随するファセットゲート発見への想いは、彼を完全に魅了していた。ギルフォーンは一般的なムーンゲートの生成方法に関する古文書の研究を進めていた。その夜もまた、ギルフォーンは夜更けまで古文書の研究を行っていたが、やがて本を閉じると身体を休めようとベッドに横たわった。即座に睡魔に襲われた彼は眠りに落ちて夢を見た。

夢の中でギルフォーンは、これまで目にしたことのない、いつもとは異なる輝きを放っているムーンゲートを発見したのだ。そして、なにもものかの声を聞いた。「これまでよく頑張ってきた……。その努力は決して無駄にはならぬだろう……。さあ、ゲートを見るのだ。そして学ぶがよい……」彼は再び目の前にある不思議なゲートに視線を戻した。そこには馴染みのある不規則な文字の組み合わせが、ねじれそして揺らぎながら浮かんでいる。ギルフォーンは足を踏み出すとゲートに入っていった。彼は興奮と共に目を覚ました。身体は震え、汗にまみれながら、自分自身を取り戻すのにたっぴりと時間がかかった。ギルフォーンはベッド

から飛び起きると研究室へ急いだ。彼の思考は光り輝く文字と神秘的呪文に集中していた。あわただしく研究室の秘薬をかき集めると、頭の中は多少なりとも狂気じみた思考に取って代わっていた。秘薬の準備を整えたギルフォーンは、これまで聞いたこともない詩的とも呼べる呪文節の詠唱を始めた。最初は何も起らないと思えた。次の瞬間、秘薬は爆発エネルギーの光となって研究室を強烈に明るく照らし、床に秘薬と共に置いたムーンストーンがゆっくりと地中へ埋もれていった。明るい光に視力を半分奪われたギルフォーンのその目に、床から姿を現した渦を巻くゲートが飛び込んできた。それはまさに夢の中に出てきたゲートと同様のものだ。ギルフォーンはゲートをくぐった。彼は新しい世界を前にしていた。後にイルシエナーと呼ばれる第3の世界に……。



The Savage Empire

街への襲撃、新種の登場といった活発化するオーク族。そして新たなサベージ族の侵攻によってブリタニアは戦場と化す。

オークという種族がいる。コーブとユ一の街の近郊に砦を築いて生活している豚のような顔を持つ亜人間であり、ブリタニアに古くから生息する生き物だ。そのオークがコーブやデルシアなど、いくつもの街の近郊にキャンプを作っているという噂が街のタウンクワイヤーによって伝えられた。その噂を後押しするかのよう、街の近くではオークたちの姿が頻繁に目撃されているのだ。近いうちにオークからの襲撃があるのでないかと噂が広まっている。近頃、冒険者たちが見たこともないオークの死体から、緑色をしたマスク (mask of orcish kin) を発見したという話をしていた。いったいマスクにはどんな効果があるのだろうか。

そしてついに、キャンプは完成した。噂によればオークロードが軍勢を集めて侵攻の準備を進めているらしい。ついに彼らは街への侵攻を開始した。オークキャンプが近郊にある8つの街では、オークの軍勢と人間たちとの激しい戦いが繰り広げられていた。オークの攻撃は日増しに強くなり、新種のオークたちまでもが加わり状況は悪化するばかりだ。中でも爆弾を使うオークボンバーや、金色のマスク (evil orc helm) を被っているオークロードは脅威なのだ。それでも人間たちは自分の故郷や近くの街を守るために戦い続けている。

ある日、オークの砦から近い激戦区であるコーブに送られた援軍のキャラバンが、オークではない者たちの手によって全滅させられたという事件があった。そして、その者たちは姿を現した……。多彩な部族マスク (tribal mask) を被り、真っ白な体に奇妙な黒いペイント (savage kin paint) を施したサベージ族は、街の中に侵攻し、人間やオークを敵とみなして襲いかかってきたのだ。サベージ族は街だけではなく、オークの砦までも襲撃し、街やオークの砦は3つの種族がいつ終わるともしれない死闘をしている。



しかし、この戦いの終わりを決めるのは人間たちなのだ。人間たちは自分の支援する部族のマスク、もしくはボディーペイントを施し、共に戦う決意をした。その結果、街は解放され、オークとサベージ族は互いに共存という形で住む場所を得て、この一連の事件は終結したのだった。

Gargoyle's Redemption

ブリタニアに新たな脅威が迫りつつあった。それはモンディン、ミナックスに続く第三の暗黒時代の支配者……

サベージとオークの戦いからしばらく経っていたある日、見たこともないようなモンスターがブリタニアの各地に現れた。鉄の巨人ゴーレム (golem) と、それを操っている謎の紋章のついた赤いローブを着たコントローラー (controller)、そして彼らの近くには必ずパワージェネレーター (power generator) と呼ばれる装置があった。



そんなある日、イルシェナーの中央部分に繋がる洞窟が発見されたという報告を受ける。周辺にはガーゴイルのつるはし (gargoyle's pickaxe) が落ちていたらしい。その洞窟を抜けるとサベージの村などがあり、更に他を探索してみると、そこにはガーゴイルの街があった。だが、様子がおかしい。よく注意してみると、彼らは奴隷でありコントローラーたちに支配され動かされていたのだ。

その頃ブリタニアやイルシェナーの地では、ゴーレムが強化され、新しいガーゴイルも現れたりと被害は拡大していた。そんな中、コントローラーの砦の中でガーゴイルについて書かれた日誌を発

見した。そこには驚くべき事実が書かれていた。サベージ族はコントローラーによって戦わされていたこと、ガーゴイルたちは意思の通じる相手であって、コントローラーに支配されているのだと。そして事件がエクソダスという者の仕業ということも……。



魔術師ニスタルは、ゴーレムから取れるパワークリスタル (power crystal) の研究によって、敵の居場所を特定する装置を開発。ブリタニア市民の協力により、作成に成功した。装置の力によって、エクソダスの邪悪なエネルギータワーを破壊すべく冒険者たちはエクソダスの軍勢と戦い、見事にタワーを破壊。封印が解けたエクソダスのダンジョンに突入した冒険者たちの活躍により、ガーゴイルを支配していた装置を破壊し彼らを解放することができた。これによりエクソダスの軍勢はブリタニアの地から撤退、いつもの平穏な土地に戻ったのである。

西部ガード

農地を荒らされる農民の不満が爆発。ブリテイン市長は食料寄贈と収穫祭用建築資材を広く市民から求めた。

フィニガン (Finnigan) 市長は、「西部農業地区の緊急保護措置 (西部ガード)」適用を決定した。西部ガードとは、市民有志による他都市からの該当製品の積極輸入、西部農家への収穫物の寄付からなる保護措置である。フィニガン市長は、「この一帯からの食料供給はブリテインにとって不可欠だ。市民の善意ある協力に期待したい」とコメントし、また西部ガードが実を結び、冬を越えるに十分な食料が集められたときは、収穫祭を計画していると述べた。そしてブリテイン西の畑の近くにテントが建てられ、有志による食料の供給が始まった。

ろに作られている収穫祭のための設備も寄付に比例するかのごとく大きくなっていった。また、フィニガン市長自らもマフィン (muffin) を寄贈したようである。



その頃、テントの裏側では収穫祭のための準備が行われていた。フィニガン市長のコメントにあったとおり、十分な食料が集められれば立派な収穫祭が行われると信じ、市民たちは積極的に寄付を行い、食料を収めているテントも次第に大きくなり、順調に食料が集められていった。テントが大きくなるにつれ、テントの後

そんなある日、フィニガン市長がテントを訪れ、「これだけの食料があれば、十分に冬を越すことができるだろう」とコメントした。集められたテントの食料を狙ってネズミなどが襲ってきたようだが、無事に撃退したようだ。数日後、テントから収穫物が運ばれ、代わりにいくつかの資材と少量のマフィンが置かれてあった。市民有志のおかげで食料と同様にテントも大きくなり、資材も順調に集められていく。テント裏に建てられた設備もメモリアルホール (Memorial Hall) として完成を見た。それから数日後、テントの前の受付が、「収穫の受付終了」と告げた。ついに収穫物は集められた。これにより西部ガードは終了し、約束どおりに収穫祭が行われたのだった。

Blackthorn's Damnation

ロード・ブラックソンの復讐、そして悠久のときを経て古の種族がイルシェナーで復活。その影には再びエクソダスの姿が。

エクソダスの軍勢がブリタニアから撤退してしばらく経ったある日、再び彼らは侵攻を開始した。



ジュカロード (juka lord)

今回はジュカ (Juka) という新たな種族と共に、エクソダスの軍勢はブリタニアの地を攻めるのであった。イルシェナーの地でも彼らの要塞が発見され、勢力は拡大していった。



そんなある日、要塞の中でケイバーの日記 (Kabur's Journal) が発見された。日記には、エクソダスによってジュカが過去からこの時代に送られてきたことが書かれていた。エクソダスの軍勢に冒険

者たちは苦戦を強いられていたのだが、更に追い討ちを掛けるかのように新たな敵が要塞の中に姿を現した。身体の半分が機械の戦士ビトレイヤーの死体から手紙が発見され、彼らがエクソダスと手を組んだロード・ブラックソンの軍勢だということがわかった。



ミーアエターナル (meer eternal)

その頃、要塞の近郊に地下室が発見されたという情報を得て、地下室の中に入ってみると、新たな種族ミーア (Meer) が長い時間を経て眠りから覚めるところだった。ジュカとミーアの歴史は、永きに渡り戦いを続けてきたもの。エクソダスによって過去から現代に送られてきたジュカを倒すためにミーアは眠りから覚めたのだろうか。今のところ、ミーアとジュカの間には戦いは起こっておらず、ミーアは人間とも戦う素振りもみせてはいない。だが、ジュカとミーアの戦う日が近いということは、人々の間で噂になっている。そしてエクソダスとブラックソンの軍勢に防戦一方の人間たちは反撃に出ることができるのだろうか……。

Plague of Despair

ジュカの絶滅を期した呪文は、森の街ユーを腐敗させる結果となった。緑を取り戻すため、人々が立ち上がった。

ロード・ブラックソンが口を開く。「まずはユーの街を攻める。我々は、カオスの力でこの国を支配する」。ロード・ブラックソン軍とエクソダス軍がユーの街を皮切りに、パアヤトリンシックの街を攻めてきた。ロード・ブラックソンはブリタニアでは見たことがない生き物に乗った竜騎兵を投入する。スワンドラゴンに騎乗し、カオスシールドを装備したカオスドラグーンは強力なロード・ブラックソンの兵士である。エクソダス軍のジュカと戦い、街を防衛していた冒険者たちは苦戦を強いられていた。

その頃ミーアの長老アドラナス (Adranath) は、ジュカが人間を攻撃しないよう、ジュカだけを滅ぼす方法として腐敗の呪文を使ったのだ。しかし、呪文は完全な形で発動してはなかった。ブリタニアの世界で腐敗した生き物が発見されるという事件が近いうちに起こった。それらはボグシングやボグリングという生き物で、倒すと種が取れることから、植物が腐敗したものではないかと言われている。だがアドラナスの使った呪文の効果はそれだけではなかった。ユーの地下では腐敗が進んでおり、新たな腐敗の生き物ブレイグビーストが生まれていた。そして恐れていたことが起きてしまった。ユーの街は地下からの腐敗のため土地は腐敗し、沼地になってしまったのだ。昔の美しかった森の街ユーの面

影は消えかけていた。



ブレイグビースト (plague beast)

そんなある日、アドラナスはユーの街に姿を現し、特効薬が見つかったのだと人々に言い、そして人々にその特効薬を集めるのに協力して欲しいと頼んだ。美しいユーの街を取り戻すために人々は協力し合い、腐敗の元凶のplague treeに特効薬を使い、ついに浄化される時がやってきた。これでユーは時間をかけて元の土地に戻るだろう。

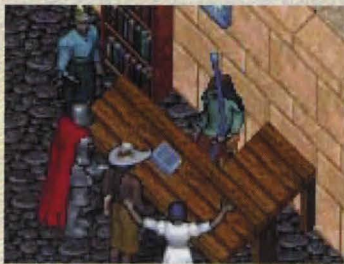


ユーが浄化されると同時期にエクソダスはロード・ブラックソンを裏切り、ユーから軍勢を撤退させてしまった。これによりブリタニアはひとときの平和を取り戻したのだった。

調査隊、遂に未確認生物を発見!

ムーングロウの動物園で見ることのできる未確認生物たち。この生き物たちを発見したとき、調査隊にドラマが生まれた。

未確認生物調査隊は昨日、発見した未確認生物(UMA)をムーングロウ王立動物園に寄贈した。現在までその存在が闇に閉ざされていた調査隊だが、ユーにある未確認生物調査隊本部で話を聞くことができた。メンバーはKeir、Gigi、Rex、Xenosの4人のようだ。次々と発見される新生物の情報の多くが、調査隊からもたらされているのだ。あまり知られていないが、かの有名なphoenix発見も彼らの功績のひとつだ。凍てつく大地や燃えさかる火山すら、彼らの勇気を脅かすことはできないのだ。ムーングロウ王立動物園長は語る。「我が動物園に動物を入れるためには、彼らのような勇氣ある調査員が数多く必要だろう。どんな情報でも構わない。ぜひ調査員のために情報を集めて欲しい。ブリタニアに住む人々よ、貴方たち1人ひとりが誇り高き調査隊の一員、特別調査員に任命されるときが来たのだ!」



彼らの噂を聞きつけ、多くの冒険者や市民がユーのUMA調査隊本部へ駆けつけ特別調査員として働くことになった。多くの調査員たちの活躍により、王立動物園は着実にUMAの数を増やしていった。そんなある日、動物園にイルカタイプのUMAが捕獲された。そのUMAは高度な知性を持っているようだったが、その入手経路について様々な噂が取沙汰されている。

ある日突然動物園に入れられたイルカタイプUMA。しかし、そのUMAは公認調査員のKeir、Gigi、Rexが捕まえてきたUMAではなく、代表のXenosが独自に入手したもので、瀕死の状態に陥っていた。調査員たちも観光客らの熱意に動かされ、UMA救出を断行。しかし、その途中でanimal brokerなる男たちが、UMA救出部隊を襲撃したのだ。なんとか撃退しUMAは無事に海へと帰されたが、Xenosがanimal brokerに襲わせたのではないかという噂が流れる。

そして噂は本当だった。Xenosの真の顔はUMAの力を吸収し、凶悪な進化を遂げた魔術師だったのである。Xenosが調査員と協力者たちによって倒された後、組織の頭を失ったUMA調査隊は解散することになったのだが、UMAが現れるときには彼らの姿が必ずあるに違いない。

Ants Go Marching

巨大なアリのような生き物がブリタニアの森に出現。腐敗の呪文は地底世界の生物を存亡の危機に陥れていた。

それらはソーレン(Solen)と呼ばれる生き物で、現在は2種類ほど目撃されている。彼らを倒した冒険者たちは見ることがない新しい戦利品を手に入れている。ズーギファンガス(zoogi fungus)というキノコのようなものを持っており、冒険者たちは戦利品目当てで狩りをしているようだ。



ソーレンウォリアー (solen warrior)

何日が経ったある日、ソーレンの巣穴が発見される。その穴から次々とソーレンたちが出てきているのだ。その巣穴は人が入ることもできた。中には騎乗でき、荷物の運搬のできるジャイアントビートルなどの新生物も存在した。



しばらく探索を進めるとソーレンクイーンに出会った。彼女は言葉が通じる

ようで依頼をしてきたのだ。その依頼を果たすと彼女は持っていたズーギファンガスを転送粉(powder of translocation)と交換してくれた。他にも巣穴にはソーレンメイトリアーク(女族長)がおり、縄張り争いのために侵入してくるソーレンを倒してくれとのこと。依頼を果たし戻ると、同盟者として扱われた。このソーレンについては多くの学者たちも、その生態を調べるべく動いていた。



ソーレンクイーン (solen queen)

そしてついに彼らが出てきた理由がわかった。以前ミーアが使った腐敗の魔法により水が腐ってしまい寿命を縮めているというのだ。ソーレンメイトリアークからの依頼により、科学者が地底湖に水を浄化する装置を作った。だが、これを作動させるためには3つのアイテムが必要なのだ。それらのアイテムは入手が困難で、学者たちだけではどうにもならず、冒険者の協力により材料は揃った。そして3つのアイテムによって装置は動き始めた。

これにより地下水も元に戻り、巣穴も決められた場所だけ残され、彼らは地上に出てくることはなかった。

平和祈願碑建設

ベスパ―対ブリテイン、2つの街が募金と資材集めて熾烈な争いを展開。その結果はあなた自身がその目で確認を！

ベスパ―のカウンセラーホールでは3人の男たちが会議を行っていた。ベスパ―の市長クインシー (Quincy)、ブリテイン市長のフィニガン、そしてスカラブレ代表のクリフォード (Clifford) の3人だ。彼らは3都市間で恒久平和を祈願する碑を建設するということを会議で決めたようだ。更に祈願碑と共に、その土地で地酒を開発するために醸造所までも建設することとなった。3人はお互い金銭のことがかりを気にしていたように思えた。

Journal

10/9スカラブレ、ブリテイン、ベスパ―共同で平和祈願碑、醸造所を建設する事が決定した。特に工作に訳ではないのだが、私がスカラブレ代表の委員として参加する事にな

by

Clifford

祈願碑の建設の発表があった数日後、ブリテインの第2銀行とベスパ―の銀行内に募金用の箱が設置してあった。そしてクインシー市長の市長室前と、フィニガン市長のオフィス前には日記が置かれ、毎日の寄付金の報告などが書かれ、市民からの意見を取り入れるための投票箱も設置された。建設場所についてはクインシー、フィニガン両市長の街で多く寄付金が集まった方に書かれている意見を取り入れて建設するとのことだった。次の会議で

は、建設現場の責任者の選定が行われる。



数日後、祈願碑の建設現場に建築材料を募集する小屋が建ててあった。どうやら金属と木材を募集するらしい。そして、予定どおり現場責任者の選定の結果が出て、翌日には小屋の前に責任者も到着した。ようやく建設資金の募集が終わり、平和祈願碑の名前も市民から出されたものを基に会議で決定したようだ。後は建設を待つだけである。

早速翌日から建設は開始され、醸造所も作られ、酒泉を空のピッチャー (pitcher) で汲むと酒 (sake) が手に入り、市民たちに地酒がふるまわれた。醸造所の周りには多くの市民たちが集まったのである。こうして日に日に建築が進んでいき、ついに平和祈願碑が完成した。そして地酒の名前や祈願碑の名前もつけられ、多くの人々が一目見ようと訪れたのだった。

光と影

裏切り、そして支えあった大事な人を失った男を奮い立たせたのは、かつての親友の作った詩であった。

エドガー (Edgar) は自然の民の末裔であり、理想高き指導者。オークから送られた友情の証である2種類のオークマスク (mask of orcish skin) の、緑色のマスクを長老から渡された男だ。このマスクにはオークを従わせる能力があるらしい。もう1つの肌色のマスクは、効果がどのようなものかわからないが、エドガーの親友であったケヴィン (Kevin) に受け渡された。しかし2人は進むべき道が違ったために、いまは親友ではなくなってしまう。エドガーは若手を集め演説を行った。緑のマスクは力を発揮し、集まった者は信仰の目で彼を見ている。エドガーは「人間は墮落してしまった、このままでは滅びの道を歩むだろう。新たな道に導く者が、それも強力な導き手が必要なのだ。そのためには多少の犠牲もやむをえない。愚民どもに神の鉄槌が下るときが来たのだ……」と言い放った。そして新しい組織「Orcs」を結成したのだ。

高い理想を求め結成されたOrcsであったが、副長のグスタフ (Gustave) の裏切りにより腹心のリッキ (Rikki) を失い、新薬の製法をもグスタフに奪われてしまったエドガーの理想は崩れ、Orcsは解散することになってしまった。しかし、Orcsの解散によってこの一件が終わったわけではなく、新たな展開をみせる。

新薬の製法を手に入れたグスタフは強力なモンスターを作ることに成功した。グスタフを止めるべく、冒険者たちもモンスターと戦い続けている。すべてを失ったエドガーだが、彼を立ち直させたのはケヴィンの作った詩であった。再び友情を取り戻したエドガーは、ケヴィンや冒険者と共にグスタフとの最後の決戦に挑み勝利した。しかし、エドガーはグスタフを倒すために犠牲となり命を落としたのだ。

コーブの街の傍には、ケヴィンの建てたエドガーとリッキの墓がある。オークの岩とコーブの街を、まるでエドガーが見守るように建てられたその墓の前で、ケヴィンはエドガーがいつも身に付けていた指輪を置き、そして自分の詩を2人に捧げたのであった。

Edgar & Rikki 共に眠る。
永遠の友情をこめて by
Kevin



灯

あらゆる望みが叶えられるという魔法のトーチ。誰もが夢見ながらも発見されなかったトーチがついに発見された。

ブリタニアには不思議な力を秘めたトーチ (torch) が存在すると言う噂がある。そのトーチはすべての望みが現実のものとなる魔法のトーチ (magic torch) として人々に知れ渡る事となった。



ブリタニアのマジックアイテム研究者によって組織された探求チームの本部が、ムーングロウのライキウムにある。責任者のオーリン (Olin) や研究員のナン (Nan) が率いる探索隊の活動も度重なる失敗に終わってしまい、魔法のトーチの存在は誰一人として掴めてはいなかった。だがオーリン教授は、調査活動によって集められた資料を基に、隠された魔法のトーチの所在を突き止めていた。そこで、別の研究者による部隊が組織され、トーチ探索に派遣されたのだった。探索部隊を率いる魔法使いのリロイ (Leroy) とその弟子のソフィエ (Sophie) はその期待に応え、多くの難解で危険な任務を見事に達成したのだ。彼らの動き

により魔法のトーチは発見された。

しかし、突然のソフィエの裏切りによって魔法のトーチは奪われようとしていた。探索隊は壊滅状態に陥り、唯一の生き残りであるリロイは、ソフィエの襲撃からトーチを死守したのだが、自分自身の魔力を封印されてしまい、魔法のトーチを守るために魔物の力が及ばない防御結界の中に身を隠した。そんなリロイを窮地から救ったのは、オーリンの呼びかけにより集まった冒険者たちであった。彼らは力を合わせ、ソフィエの施した危険な4つのダンジョンにある封印の像 (stone gargoyle) を破壊し、リロイの魔力を取り戻して彼を解放することに成功したのだ。



こうして、無事に探索本部のオーリンに届けられた魔法のトーチであったが、魔法のトーチはいつしか彼の手元から忽然と消えてしまった。ソフィアの突然の変心の原因、そしてオーリンの元から消えた魔法のトーチの行方は、未だ謎のままである。

正しさの定義

ブリタニアとロストランド両地域にエレメンタルが異常発生。処刑された男、失踪する仲間。事件は意外な方向へ展開する。

事態を重くみたフィニガン市長は、ユースにエレメンタル被害対策本部を設置したのである。



早速メンバーである衛兵のリーランド (Leland)、トリンシック衛兵書記官であるエリス (Elyse)、荷ラマ協会支部長のミコス (Mikos)、調査員のクックル (Cucule) の4人によって会議が行われた。彼らの報告から、風に乗ってエレメンタルが移動していること、エレメンタルの発生は周囲の環境によって変わるということ、死体からは自立型の極少機械が発見され、何らかの意図により発生していることや、ロストランドの北の雪原に薔薇の花を模したものが設置されているのがわかった。どうやら、この薔薇の花がエレメンタルの異常発生の原因なのだということで再び調査は開始された。エリスからの報告によると、エレメンタルが出発し始めた頃に死刑になったクラウドベル (Crowdbell) という男の

研究が怪しいのだと噂があった。そしてクラウドベルが処刑された後、婚約者が失踪したらしいのである。薔薇を作ったのはクラウドベルだったのだろうか……。



エレメンタル対策本部は、薔薇の花を除去し運搬するために必要な魔法のバックパックを作成するために、その材料集めを目的として動いている。無事に材料は集まったのだが、メンバー同士の意見の衝突、クックルとの連絡が取れないという事態が起こってしまい、対策本部は解散することになってしまった。納得のいかないエリスとミコスは、解散したにもかかわらず調査を続けていった。結果、驚くべきことにクックルはクラウドベルの婚約者であった。そして彼女は、裏で糸を引いていたマジンシアのメイジギルドに捕まっていたのだ。全てのことをクックルの口から聞いたエリスとミコスは、冒険者たちと共に薔薇の除去に成功したのだが、命令違反の罪で指名手配になってしまった。しかし、やるべきことをやった2人には後悔などなかった。

契約と代償

嵐の晩にある農夫が交わした契約。契約のおかげで貴族となった男は、娘の20歳の誕生日にその代償を支払うときが来た。

その農夫は黒衣の男から地位と財産を得るための契約をした。しかし、その代償は生まれてくる娘を差し出すというものだった。そして月日が流れた……。

今日はある屋敷で貴族の娘の誕生会が行われる。屋敷には主人のサウル(Saul)、執事のカイル(Kyle)、そして本日の主役であるシャルロット(Charlotte)と、誕生会の話聞きつけた人々が集まっていた。そこへ現れた1匹のオークロードが「主の命により娘を迎えにきた」とサウルに言った。だが、サウルはそのことを予期し、震えながらも「それだけではできない」と断った。それならばとオークロードは手下と共にシャルロットを連れていこうとするが、カイルや衛兵、冒険者たちによりこれを阻止。しかしサウルは娘に、かつての契約について話をしなければならなかった。1人になりたいと自室にシャルロットが戻ると、カイルは冒険者たちにシャルロットを守って欲しいと頼む。冒険者たちは共にシャルロットを守るカイルが不思議な力を持っていることに気づく。



そしてオークロードから黒衣の男の居場所を聞き出したサウルたちは、ヒスロスのダンジョンに向かった。幾多の戦闘を経て、最下層にたどり着くものの、黒衣の男の姿はなく、現れたのは青い体をした悪魔だった。そして、その悪魔こそが黒衣の男の正体であり、カイルのもう1つの体だということがわかる。驚きを隠せない一行だが、人間として生きたいというカイルの心を知り、サウルが人間になることのできる方法を調べた。

ついにカイルを人間の体に戻すときが来た。場所はロストランドの雪原にある隕石孔。目的地へ着くとサウルは呪文を唱え儀式を開始した。そして儀式は成功した。カイルの体から青い悪魔が抜け出て分離したのだ。だが、分離した悪魔はカイルを殺そうと暴れ始める。しかし、冒険者たちにより命を絶たれた。そしてサウルは、かつての契約を果たすと言う。シャルロットをカイルに結婚というかたちで渡すのだと。そして2人は新たな契約をし、人々から祝福され、幸せに新婚旅行へと旅立っていった。



マラス発見

行方不明となった冒険家の父を探す兄弟が、嵐の海で遭遇した巨大な渦。流された先は正邪の大陸マラスであった。

グレイン(Greyn)が見張りを務めるマストのてっぺんからは、ブリタニアの大洋が果てしなく続いているように見えた。嵐が近づくにつれてうねりが高くなっている。空は黒い雲に覆われ、まるで世界全体が使い古して毛羽立った毛布に包み込まれたようだった。彼はマストにしがみついた。風は次第に冷たく、船の揺れは大きくなり、波はますます機嫌を悪くしていく。甲板を見下ろすと、船首の近くに弟のモーディン(Mordin)が立っていた。彼が海図に見入るその姿は、間近の危険などまるで眼中にないといった様子だった。2人は2年にもわたって冒険家の父を探し歩いていたのだ。

嵐を避けるべく方向を変え、黒い雲の下を何時間も航行したが、高波はますます激しく船を揺さぶり、船体は気分を悪くした海の怪物のような悲鳴をあげた。風の強さが尋常ではなくなったため、兄弟は慌てて帆を畳んだ。だが船は速度が下がるどころか、速力を増していく。モーディンが海の中の巨大な割れ目を発見し、船がその割れ目に引きずり込まれるのがわかる。兄弟は、そこに待つ自分たちの運命を悟った。そして船はものすごい速さで渦に引き込まれていった。船は巨大な海の壁を下へ下へと落ちているようだ。深度が増すにつれ周囲は次第に暗くなり、やがて船は漆黒の闇に包まれてしまった。モーディンが最後に聞いたの

は、マストが粉々に砕け散る音だった。モーディンのはかすかに残っている意識と感覚がない体で、折れたマストにしがみつくながら意識を失った。



2人が次に目を開けたとき、そこは広い大地だった。いったいどのくらい流されたのだろうか。2人は奇跡的に生きていて体の感覚が戻った頃、この土地の住民に出会い、自分たちが抜けてきた海がゲートウォーター湖(Gatewater Lake)と呼ばれる湖であったことと、この土地が自分たちの知らないマラス(Malas)という世界であることを知る。

そしてこの世界なら、探していた父親がいるのではないかという期待を抱いて、旅立ちの準備をするのであった。



遙かなる大地の果てに

ラットマンになってしまう！ 呪いを解くことができるのは、ロストランドのどこかにあるという奇跡の水だけだ。

考古学者ロック・J・アービング (Rock.J.Irving) は助手のジーン (Jean) と愛犬のバル (Pall) と共に、バブアの近くの砂漠にあるテントを拠点として発掘作業をしている。

ある日ロックが日射病になり、水を求めてオアシスにいったが、そこでオスタードと呼ばれる集団とリーダーのミカエル (Micael) と出会う。

数日後、今度はバルが病気になってしまい、ロックはバルをミノックのヒーラーに預けていたのだが、バルが失踪してしまったことを聞かされる。更に、テントに残しておいたジーンがさらわれたという話をミカエルから聞かされる。ひどくショックを受けたロックはラットマン (Ratman) の姿になってしまったのだ。これには周りの人々の方が驚かされた。

ロックの話を知ると、冒険の際に呪いを受けてしまったということだった。ロックの呪いを解く方法は、ロストランドにある奇跡の水を飲むしかないらしい。ロックの体は徐々にラットマンの体になりつつあるので、急がねばならない。ミカエルの情報でジーンの救出に向かうが、幸いにもジーンは元気だった。そしてジーンをさらったマルコス (Marcos) という男に会い、ロックとマルコスが同じ奇跡の水を求めているということを知る。目的の同じロックとマルコスは共に奇跡の水を求めて調査を進める。ジーン

やミカエルたちの協力もあり、テラサンキープ屋上の滝に奇跡の水があることがわかった。

解呪のときがきた。だがマルコスは、この水が呪いを分離し、片方は浮かび上がり、もう片方は滝に飲まれ消えると言った。そしてマルコスは身を投げた。しばらくして滝から浮かび上がったのは、なんと愛犬のバルだった。バルが帰ってきたと喜びと同時にマルコスの解呪が失敗し、滝に飲まれたことに気づく。一同が心配する中、ロックは必ず戻ってくると言い、滝へ身を投げた。固唾を飲んで見守る一同、そして浮かび上がったのはロックだった。解呪は成功したのだった。



ジーンがマラスへ向けてゲートを開いた。次はマラスで発掘だ。人々に見送られながらロックとジーン、そして愛犬のバルはゲートの中に消えていった。

ロード・ブラックソーンついに倒れる！

ロイヤルナイトのレディ・ドーンのスピーチ中にロード・ブラックソーンが乱入。フェルッカのユーへ攻撃を開始する。

ブリタニア評議会は非常に重要な問題について、国民に演説することを決定した。そしてタウンクライヤーによってレディ・ドーンがサーベント ホールドのカウンセラーギルドでスピーチを行うということが人々に伝わった。レディ・ドーンの人姿を一目見ようと、ブリタニア中の人々が集まったのだ。



ついにレディ・ドーンがその姿を見せた。そしてスピーチは始まった。「ようこそ、ブリタニアのみなさん！ 私の名はドーン。我らの王が姿を消して以来……ブリタニアのロイヤルナイトにして、この王国を支えたる人々の味方です。国民の皆さん、私はあなた方を誇りに思います。カオスの恐怖にさらされていたこの国を、勇敢に護って下さいました。国民の皆さん、かつてエクソダスやロード・ブラックソーンといった悪の輩がこの国を蹂躪しましたが、あなた方の努力のお陰で、再び平和が訪れました。

しかしまた、新たな厄災が降りかかってきています。正邪の大陸がもたらされ、我々はマラスと呼ばれる新しい大地に足を踏み入れました。われわれは、バラディンとネクロマンサーの間に繰り広げられる正義と真実に身を託しました。友よ、私はあなた方を称えます！



すると以前より目撃の噂のあったロード・ブラックソーンが姿を現したのだ。そしてフェルッカのユーが、ロード・ブラックソーンの手によって攻撃を受けていることを話すと、モンスターたちを使い、会場を混乱させ姿を消した。レディ・ドーンと冒険者たちは、直ちにモンスターたちを倒し、フェルッカのユーへ向かった。そして激しい戦いの末、レディ・ドーンと冒険者たちは見事ロード・ブラックソーンを倒したのだ。この報は、すぐさま街のタウンクライヤーによって伝えられたのだが、はたして本当にロード・ブラックソーンを倒すことができたのだろうか。誰もが疑いを抱きながらも我々は、ようやく混沌の苦しみから解放されたのだと願うことしかできない。

登場人物

ブリタニアの歴史に登場している主要な人物を紹介しよう。広大な世界のどこかで出会えるかもしれない。

ロード・ブリティッシュ(Lord British)

ブリタニアを統治する王。

この世界がソーサリアと呼ばれていた時代、暗黒の魔法使いモンテインを倒すべく異世界からの冒険者(後のアバター)を召喚した。その後ソーサリアを統一し、今日のブリタニアを建国した。

3つの原理から導き出される8つの徳による倫理観を確立し、人々にも徳の精神を磨くよう奨励した。

彼の治世を支えていたのは、サー・デュブレやジョフリー、相談役のニスタル、そして後に袂を分かつことになるロード・ブラックソンたちである。ロード・ブラックソンとはしばしば意見の対立をみたが、互いを尊重しあうよき理解者でもあった。

一時消息がつかめず国内に不安があったが、先ごろ遠方への旅から帰還。各地で集めてきた品々を国内に広めた。

アバター(Avatar)

モンテイン討伐後、ロード・ブリティッシュの施政のために8つの徳を極め、徳と原理と公理の謎を解き明かし、究極の智の經典コデックスを発見した。アバターと共にこの旅をした8人をアバターコンパニオンという。

モンテイン(Mondain)

ソーサリアを支配するために不死の宝珠の中にソーサリアを閉じ込めることに成功するが、異世界からの冒険者によって討たれ、宝珠は粉々に砕かれた。しかし、その魔力は強力で、砕かれた宝珠のかけら1つひとつにソーサリアが存在することとなってしまった。この宝珠のかけらのうち、大きなもの3つに原理に相対する意思、憎悪・臆病・偽りが宿り、そこから生まれたのが3体のシャドーロードである。

ミナックス(Minax)

モンテインの弟子にして愛人ともいわれる魔女。師の仇を討つべくファセット(面)移動の魔法を開発し、ロード・ブリティッシュたちを窮地に陥れた。『戦火に残された希望』でも再びブリタニアに恐怖を巻き起こす。現在も虎視眈々と侵略の機会をうかがっているに違いない。

エクソダス(Exodus)

モンテインとミナックスの創造したものであるという噂があるが真偽のほどは不明。ロード・ブラックソンを半機械化してブリタニアへの侵攻軍を指揮させたり、古の種族ジュカを甦らせて尖兵とするな

ど、その実態は不明とはいえ恐るべき力を感じさせる。

ロード・ブラックソン(Lord Blackthorn)

かつてはロード・ブリティッシュと共にブリタニアを統治するもう1人の指導者であったが、ロード・ブリティッシュの長期不在中に権力の掌握を図り失敗。敗れた彼はエクソダスに身も心も売り、半身機械化されながらもカオスの力によってブリタニアの支配を計画する。

ジュカと共に数度にわたりブリタニア侵略を進めるが、レディ・ドーン率いる軍勢にユー南部で破れ死亡したとされる。

サー・デュブレ(Sir Dupre)

ロイヤルナイト。アバターコンパニオンの1人で名誉の徳の守護者。世界の危機には常に先頭に立ち活躍している。

ジョフリー(Joffry)

戦士。アバターコンパニオンの1人で武勇の徳の守護者。ロード・ブリティッシュの護衛隊長。

シャミノ(Shamino)

レンジャー。アバターコンパニオンの1人で靈性の徳の守護者。サー・デュブレ、ジョフリーらと共に王室の頭脳としても活躍している。

ジャーナ(Jaana)

ドルイド僧。アバターコンパニオンの1人で正義の徳の守護者。王室のために活動することが多い。

ジュリア(Julia)

アバターコンパニオンの1人で献身の徳の守護者。F.o.A事件で殺害された。

マライア(Mariah)

魔法使い。アバターコンパニオンの1人で誠実の徳の守護者。ライキウム館長を務めている。

ニスタル(Nystul)

ロード・ブリティッシュの相談役にしてブリタニア最強の魔法使い。

その明晰な頭脳によって、国内に起きた数々の危機から国民を救った。最近は一線を退いたという噂も聞かれる。

レディ・ドーン(Lady Dawn)

ロイヤルナイト。ロード・ブリティッシュ不在の際に、サー・デュブレに推戴され国民の代表となった。

イベントの概要

本書で編纂した出来事は、どのように発生し進行していったのでしょうか。その流れを紹介しましょう。

イベントの始まり

ブリタニア国民の間では、本書で紹介したような出来事を一般的に「イベント」と称しています。ここでもその習慣にならぬイベントとします。

BNNではいち早く情報をキャッチし、ブリタニア国民のみなさんにイベントのお知らせをしています。

<http://town.jp.uo.com/bnn/>をご覧くださいと、これから始まる、または現在進行中のイベントのニュースが掲載されています。



ニュースには大きく分けて2種類あり、全世界規模で発生している『ワールドニュース』と、特定のシャードでのみ発生している『ローカルニュース』です。ワールドニュースはブリタニアの世界を大きく変えるものが多く、新大陸の発見や新しい種族・モンスターの登場を伴うものです。ローカルニュースは発生しているシャードにのみ影響を及ぼすため、イベントに参加したい場合は、そのシャ

ードにいかなくてはなりません。

またBNNには、音声またはムービーを使用したBNNステーションという放送番組があります。ここでもイベントの様子やお知らせを放送していますのでぜひご覧ください。

タウンクライヤーのニュース



イベントが発生すると、街の銀行前など人が多く集まる場所において黄色い名前表示のタウンクライヤー (Town Cryer) がニュース速報を発信します。

彼らの前に立って「news」と発言してください。イベントが進行中であれば、最新の情報を語ってくれるでしょう。イベントがなければ、「今のところニュースはありません」と言います。



最新情報だよ～！

Lady DawnがスピーチをおこなうSerpents Holdへのゲートはthe Blue Boar前にあるようだ

現場に駆けつける

タウンクライヤーから得た情報を基にイベントの発生している場所に移動してみましょう。ただし、タウンクライヤーは正確な場所を特定してくれません。たとえば、ブリテインで市長が演説をすると言ったとしましょう。しかしブリテインはとても大きな街で、街のどこに市長がいるのかは探さなくてははいけません。

現場にいってみると、たいていは同じように情報を聞いて駆けつけた人たちがいるはずです。イベントではキーとなる人物がいることが多く、その人物が何かを話します。

参加者がいる程度集まると、最初は状況の説明にあたる大事な部分が語られます。参加している他の人の邪魔にならないように、マナーを守りその人物の話をよく聞きましょう。

それは突然訪れる

タウンクライヤーがニュースを叫ぶと

となく、あるとき突然イベントが発生することもあります。紫の名前の人（人でないときもあります）が現れたり、ダンジョンの中で見たこともないモンスターが突然登場したりするのです。

これらは比較的短い時間で終了するイベントで、その場に居合わせたらラッキーといえるでしょう。

季節を感じる

イベントにはある場所に特別な施設が作られるというものもあります。新年の飾りつけ、夏には天の川、そしてホリデーシーズンにはクリスマスの装飾が施されたりします。



ウルティマ オンライン ストーリーブック

ライティング： むらまちゃ
デザイン・DTP： 株式会社エストール
発行： エレクトロニック・アーツ株式会社
画像協力（掲載順）：

- Ultima Britannian Peacocks : <http://home.att.ne.jp/gold/uo/>
- Britannia 観光案内所 : <http://member.nifty.ne.jp/kamurai/>
- Ultima Online Event Report 「Viva BUZOKU!」 : <http://www.tap.gr.jp/nakadi/>
- Rena's UO Event Report : <http://www10.plala.or.jp/rena-ef/>

EOL-7024



©2003 Electronic Arts Inc. Ultima, the UO logo, Britannia, EA GAMES and the EA GAMES logo are trademarks or registered trademarks of Electronic Arts Inc. in the U.S. and/or other countries. Lord British is a trademark or registered trademark of Richard Garriott in the U.S. and/or other countries. All rights reserved. EA GAMES™ is an Electronic Arts™ brand. All other trademarks are the property of their respective owners.